

(2)

M-0195

0112

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 二七一八九 (暗)

新京 十月廿六日夜着

歐、亞

廣田外務大臣

植田大使

第九八六號 (極秘)

貴電第九(八)七號去關シ(滿、波間領事館設置相互承認方ノ件) 滿側ニ於テハ左ノ通り公文ノ交換ヲ行ヒ度キ意嚮ニテ貴方ト聯絡ノ 上右然ルヘク取運フ様在京同國大使ニ訓令ノ答ニ付適宜御指導相成 度シ

在哈爾濱「ポーランド」總領事館ニ關シ奉天伊太利總領事館開設 承認ノ手續ニ準シ公文交換ヲ行フコト

ニ「ポーランド」側ヨリ同國內ニ滿洲國領事館開設ニ異議ナキ旨ヲ

外務省

前記交換公文中ニ又ハ別ノ公文ニテ明カニスルコト(尤モ滿側ハ 今直ニ領事館ヲ開設セス追テ名譽領事ヲ任命スル程度ニ止ムル意 嚮ニ付其ノ旨必要アラハ口頭ヲ以テ先方ニ申入ルルコトトス)

(了)

外務省

極秘

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 會社 秘書官

寫送先

分類 M. 1. 5. 0. 17

昭和13 四六一三 (暗) ワルソ 二月十七日後發 十八日前着 歐

廣田外務大臣 酒匂大使

第二六號、極秘

客年滿宛貴電第九八七號ニ關シ(滿波間領事館設置相互承認ノ件) 一月上旬在滿波蘭領事館問題解決セル趣ノ處大要電報詳細郵報ヲ請

(了)

外務省

大臣  
次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 會社 秘書官

寫送先

分類 M. 1. 5. 0. 17

昭和13 一二四三四 暗 ワルソ 五月四日後發 四日夜着 亞、歐

廣田外務大臣 酒匂大使

第一一八號

貴電第五五號ニ關シ(滿波間領事館相互設置承認ノ件)

東方部長ハ本使ニ對シ波蘭カ滿洲國ニ於ケル最惠國待遇問題ニ付交 涉ヲ重ネタルハ滿波貿易發展ノ可能性大ナルヲ認ムルカ爲ナリシカ 今回提案ヲ受ケタル滿洲國ハ案ニテ解決ヲ計ルコトトセリ右ハ同 案ヲ以テ満足ナリトスルニアラス實ハ聯盟ニ於テ「アピシニア」間 題カ兎ニ角解決セハ次ニ來タルハ滿洲國ノ承認問題ニシテ既ニ同國 ニ對シ事實上ノ承認ヲ與ヘタル波蘭トシテハ正式承認ノ時機モ遠キ

在波蘭領事館設置相互承認ノ件

2-20

外務省

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文藝 調查 人典 儀典 文書 會計 祕書官

次大臣 官

電信課長

分類 2415.0.1-17

大

昭和十三年五月六日午後發 條、亞 七日前着 歐

昭和13 一二七四五 (暗)

ワルソ 五月六日後發 條、亞 七日前着 歐

廣田外務大臣

酒匂大使

第一二四號

(滿波間領事館相互設置承認問題ノ件)

貴電第六〇號六日夜到達成ルヘク速ニ「サウンド」スヘキモ卑見ニ  
ハ波蘭大使ノ言カ交渉ヲ有利ニセントスル魂膽ニノミ出ツルト  
ハ考ヘラレサルモ當國ノ立場トシテ聯盟ニ於テ滿洲國問題ニ付主動  
的態度ヲ執ルヤ否ヤ疑ハシク唯往電第一一八號東方部長ノ内話ハ或  
ル席ニテ部長ヨリ進ンテ本使ニ爲セル次第ニテ右ハ當國今回ノ聯盟  
會議ニテ滿洲國問題ニ付何等カノ措置ヲ執ルヘシト「ヒント」ナ

外務省

外務省

ニアラストノ見透ヲ付ケタルニ依ルモノナル旨内話セリ  
壽府へ轉電シ在歐各大使及瑞西へ暗送セリ

リトモ解セラレ旁論理ヲ好ム當國ノコト故「エチオピア」問題ノ討  
 議ニ際シ論理ノ當然ナリトシテ滿洲國承認問題ニ關スル質問ヲ持出  
 シ成行ニ應シ其ノ態度ヲ決セントスルニアラスヤ推測ス尙「ベツ  
 ク」外相ハ九日本使招待ノ晚餐ニ出席ヲ約シ居レリ  
 冒頭貴電ト共ニ壽府ニ轉電セリ

外務省

M  
 1  
 5  
 0  
 2-20

1-17  
 M.H. 0. 2-29

昭和13 一二九六九 暗 哈爾濱 五月九日後發  
 本省 九日夜着  
 廣田外務大臣 鶴見總領事  
 第九九號ノ一  
 貴電第六一號ニ關シ(滿波間領事相互設置承認問題ニ關スル件)  
 貴電所述ノ(一)賓州線博克圖驛ヨリ綽爾林區ニ至ル約五一杆引込  
 線(軌道其ノ他一切ノ施設ヲ含ム)ニ關スル權利問題ナルカ本件  
 ハ客年六月二十九日東方建築公司(一)  
 ノ代表者(「グシンスキー」、「ウラノフスキー」及「ジエレス  
 ニヤク」ノ三名)ト鐵道總局長大村トノ間ニ一ノ覺書ヲ作り東方  
 建築公司ハ鐵道總局ヨリ金十四萬圓ノ涙金ヲ受取り爾後同公司ハ  
 本件ニ關シ何等ノ權利ヲ主張セスト誓約シ事件ハ既ニ圓滿ニ解決  
 シ居レリ  
 貴電所述ノ(二)ニ付テハ今日迄在哈波蘭領事館側ニ於テ滿側ニ正式

外務省

(日本標準規格B5)



交渉シタルコトナク當地外務局特派員公署及特務機關ニ於テモ何等承知セサルノミナラス波蘭領事館側ハ近ク此ノ問題ヲ取上ケテ新京ニ交渉セントシ居リ當館ヨリ本件利権ノ内容、歴史等ニ付問合せタルニ對シテモ今一應「グロハウスキ」夫人ニ其ノ内容ヲ確メタル上當館ニ説明書ヲ提出スヘシト答ヘ居ル程度ナリ（續ク）

外務省

(日本標準規格B5)

昭和13 一二九七一 暗  
廣田外務大臣  
第九九號ノ二

哈爾濱 五月九日後發  
本省 九日夜着

鶴見總領事

尤モ本件ニ關聯シ邦人糸田某ヨリ糸田カ本件利権ニ關シ「グラハ  
ウスキー」ニ對シ供シタル勞力ノ報酬取立方ニ關シ從來當館ニ再  
三援助方願出テタルコトアリ其ノ際糸田ノ依頼ヲ受ケ本件利権確  
保方ニ付新京關東軍ニ接觸シタルコトアル在哈邦人辯護士柏田某  
ニ就キ取調ヘタル處軍側ハ本件利権ヲ認メサル意嚮ニテ柏田モ本  
件利権ハ問題ニナラスト一笑ニ附シ居レリ  
上記(一)及(二)ニ付テハ關係者ヨリノ書類提出ヲ俟チテ委細郵報スヘ  
キモ當地波蘭領事ノ談話其ノ他ヲ綜合スルニ滿波間領事館相互設  
置承認問題ニ關聯シ是等事件ヲ持出シタルハ在京波蘭大使館側ノ  
思付トシテ此ノ際在滿波蘭人カ滿洲事變前支那政府ヨリ受ケ居リ

外務省

(日本標準規格B5)

M-0195

寫送先

大臣 次官 電信課長 東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 秘書官

分類 M 1.5.17 (17)



昭和13 二七七六八 (暗) 新東京 九月廿一日後發 亞、歐、通本省 廿一日夜着

宇垣外務大臣 植田大使

第六六九號

貴電第九八一號ニ關シ(滿波領事館設置相互承認問題ノ件)

外務局ヨリ左記方針ニテ交渉方廿一日駐日大使ニ訓令セリ

一「國民的」ナル字句ヲ存置スルコトニ同意ス

ニ波蘭側ニ於テ我國承認ヲ文書其ノ他ノ手段ヲ以テ公式ニ聲明スル

ニ於テハ第三公文二號ノ括弧ニノ但書全部ヲ削除ス但シ波側ノ對

國際的問題ヲ考慮シ右聲明ハ或時機迄非公表トシ差支ナシ

三波蘭大使私案(D)ノ撤回ニ關シ

外務省

タルト同一ノ待遇ヲ確保セントスルコトニ重點ヲ置キ居ルモノト  
思考セラレ  
四 尙貴電所述ノ三係爭事件中ニハ「カワリスキー」ノ問題ヲ含ミ居  
ルヤ本官參考迄ニ御回電ヲ請フ  
滿へ轉電セリ

外務省

(日本標準規格B5)

M-0195



波蘭側カ議事録ニ記載方要求シ居ル利權問題ニ關シテハ貴大使ニ於テ波蘭側申出ノ所謂三利權問題ニ付テハ領事館相互設置承認問題解決後別途滿波間ニ交渉スヘキコトニ異存ナク且我方ニ於テハ本問題ヲ我國法ノ許ス限り好意的ニ處理スヘキ旨ヲ公式ニ聲明セラレ差支ナキモ今更議事録ヲ作成スルカ如キハ徒ニ交渉成立ノ時機ヲ遷延セシムルノミナレハ爲シ得レハ之ヲ避ケ貴大使ノ公式聲明ノミニテ處理スルコトト致度シ先方ニ於テ強ヒテ議事録又ハ文書作成ヲ要求スル場合ニハ之ヲ認ムルカ又ハ本件三公文トハ別個ニ一般ノ公文トシテ貴使ヨリ右聲明ノ次第ヲ波蘭大使ニ通報スルコトトセラレ差支ナシ

尙右以外ノ同種問題乃至賠償問題ノ今後ノ取扱ニ付テハ相互的ニ

外務省

第三公文案第二號ノ二ニ依リ處理セララルヘキモノナルニ付何等滿側ニ於テ一方的ニ聲明スヘキ限リニアラス

四 交換公文ノ公表ニ付テハ波蘭側申出ノ條件ヲ承認ス(了)

外務省





513  
目  
通  
送

電信課長  
大臣  
次官

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

老總内侍

M. 1.5.0. 1-17

昭和13 二九一九一 (暗)

ワルソ 十月四日後發 亞、歐  
本省 五日前着

近衛外務大臣

酒匂大使

第三三六號

貴電第三三二二號ニ關シ(滿波間領事館設置相互承認問題)

御來示ノ趣ハ豫テ先方ニ申入レ其ノ注意ヲ促シ置ケル處四日東方部員ノ内報ニ依レハ哈爾濱領事館設置問題ヲ近ク解決ノ豫定ニテ或ハ滿洲國使節來波迄ニ間ニ合フヘントノコトニテ其ノ場合ニハ「ベツク」外相ニ於テ歡迎會ヲ主催スル趣ナリ右ハ其ノ機會ニ或ハ進ンテ滿洲國ヲ承認スル意嚮ナルヤモ測ラレサル處此ノ點ハ外部ニ極秘ニセラレタシ爲念(了)

外務省

門	M	編者附言
項	1	ハ
目	5	
日	0	
號	2-20	

M. 1.5.0. 1-17

昭和13 二九三八八 (暗)

新京 十月六日後發  
本省 六日夜着

近衛外務大臣

植田大使

第六九九號

滿波領事館設置問題ニ關シ錢ニ外務局ヨリ最後案(委細駐日大使館ニ就キ御承知ヲ請フ)ヲ訓令セルカ右案中最惠國待遇ノ點ニ關シ波蘭側ニ難色アル旨駐日大使館ヨリ報告アリタル處滿側トシテハ右案ヨリ一步モ讓歩シ得サル趣ヲ以テ此ノ際我方ニ於テ右受諾方波蘭側ニ口添ヘセラレタキ旨外務局ヨリ依頼越セルニ付テハ然ルヘク御配慮煩度シ(了)

外務省

(日本標準規格B5)

M-0195

0120

電信課長  
森

大臣

次官  
堀

東亞  
歐亞

本信寫挿入先

類	項目	號
6	2	0
3	1	2

文化 調査 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

老總内侍

昭和13 二九一九一 (暗)

ワルソ一 十月四日後發 亞、歐  
本省 五日前着

近衛外務大臣

第三三六號

酒匂大使

三二二號ニ關シ(滿波間領事館設置相互承認問題)

趣ハ豫テ先方ニ申入レ其ノ注意ヲ促シ置ケル處四日東方部

ニ依レハ哈爾濱領事館設置問題ヲ近ク解決ノ豫定ニテ或ハ

滿洲國使節來波迄ニ間ニ合フヘシトノコトニテ其ノ場合ニハ「ベツ

ク」外相ニ於テ歡迎會ヲ主催スル趣ナリ右ハ其ノ機會ニ或ハ進ンテ

滿洲國ヲ承認スル意嚮ナルヤモ測ラレサル處此ノ點ハ外部ニ極秘ニ

セラレタシ爲念(了)

外務省

門	項目	號
1	5	0
2	2	20

昭和13 二九三八八 (暗)

新京 十月六日後發  
本省 六日夜着

近衛外務大臣

第六九九號

植田大使

滿波領事館設置問題ニ關シ義ニ外務局ヨリ最後案(委細駐日大使館ニ就キ御承知ヲ請フ)ヲ訓令セルカ右案中最惠國待遇ノ點ニ關シ波蘭側ニ難色アル旨駐日大使館ヨリ報告アリタル處滿側トシテハ右案ヨリ一步モ讓歩シ得サル趣ヲ以テ此ノ際我方ニ於テ右受諾方波蘭側ニ口添ヘセラレタキ旨外務局ヨリ依頼越セルニ付テハ然ルヘク御配慮煩度シ(了)

M 1.5.02-17

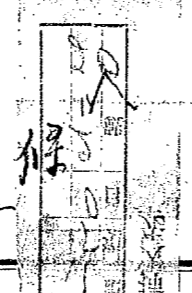
外務省

(日本標準規格B5)

M-0195



M.15.0.1-17



極秘

康徳五年四月八日

外務省東亞局第三課 御中

駐日滿洲國大使館

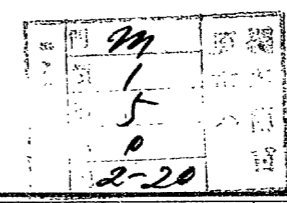


拜啓 滿波間領事館設置相互承認ノ件ニ關シテハ豫々御高配賜居候  
處今般最近迄ノ該件交渉經過ヲ「第一輯」トシテ取纏メ候ニ付左記  
如ク御參考迄ニ御高覽ニ供シ候  
敬 具

一「滿波間領事館設置相互承認ニ關スル交渉經過」第一輯  
(拾部ノ五) 一部

駐日滿洲國大使館

12. 2. 12. 2000. G.



M.15.0.2-29

昭和13 三〇七一四 平 新京 十月十九日後發  
本省 十九日夜着

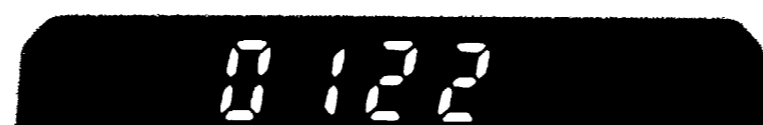
近衛外務大臣 張景惠

滿波領事館設置相互承認問題ノ交渉成立シ本日駐日滿波兩大使間ニ  
公文ノ交換ヲ了シ得タルハ閣下竝ニ關係各位ノ御協力竝ニ御斡旋ニ  
依ル所大ナリ  
謹テ深甚ナル謝意ヲ表ス

外務省

(日本標準規格B5)

M-0195



M.15.0.1-17

保

本信寫挿入先

1	5	0
2	1	8
20		

極秘

康徳五年四月八日

外務省東亞司第三課 御中

駐日滿洲國大使館



九

ノ如ク御參考送ニ御高覽ニ供シ候

記

一「滿波間領事館設置相互承認ニ關スル交渉經過」第一輯

(拾部ノ五) 一部

駐日滿洲國大使館

12. 2. 15. 1999. G.

M.15.0.2-29

29	
1	
5	
0	
2-20	

昭和13 三〇七一四 平 新京 十月十九日後發 本省 十九日夜着

近衛外務大臣

張景惠

滿波領事館設置相互承認問題ノ交渉成立シ本日駐日滿波兩大使間ニ  
公文ノ交換ヲ了シ得タルハ閣下竝ニ關係各位ノ御協力竝ニ御斡旋ニ  
依ル所大ナリ  
謹テ深甚ナル謝意ヲ表ス

外務省

(H.木標準規格B5)

M-0195



極秘

康德五年四月五日

滿波間領事館設置相互承認ニ關スル交渉經過(第一編)

駐日滿洲國大使館

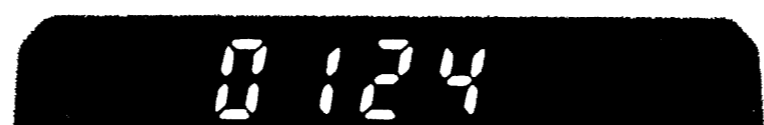
(拾部ノ五)

駐日滿洲國大使館

備考

- 一、本交渉經過ハ交渉ノ経緯、變化等ヲ知ルニ便セムガ爲其ノ概略ヲ系統的ニ摘録シタルモノナリ
- 二、相互ニ手交セラレタル覺書及補足的申入又ハ問答ハ凡テ其ノ骨子ヲ綴ルニ止メタリ
- 三、本交渉經過ニハ特別ノモノヲ除クノ外、日本外務省駐滿日本大使館相互間又ハ外務局駐滿日本大使館相互間ニ交換セラレタル往復公文電ヲ除外シアリ
- 四、本交渉經過ニハ本國政府ヨリノ訓令ニ基ク第一交渉開始ヨリ本年三月廿八日迄ノモノヲ記述セリ、從テ其ノ以後ニ於テ著シク轉換進捗セル交渉經過ハ別ニ作成セラルベキ(第二編)ニ依リテ知ラルベシ

駐日滿洲國大使館



交渉経過

(1) 康德四年十月廿六日國務總理大臣登院大使宛往電第二三五號ヲ以テ「波蘭領事館開設申越ニ關スル件」ニ關シ日本外務省ト連絡ノ上左ノ要領ニ依リ措置方訓令ニ接ス

駐日波蘭大使ハ在哈同國領事館ヲ滿洲國ガ正式ニ認メルコトトセラレタキニ以テ日本外務省ニ相談越アリタル旨日本外務省ヨリ滿洲國政府ニ通報アリタリ仍テ滿洲國政府駐日大使ニ對シ左ノ要領ニ依リ交渉方ヲ訓令セリ

(一) 伊太利總領事館開設承認ノ手續ニ準ジ院大使ト駐日波蘭國大使トノ間ニ公文交換ヲ爲スコト

(二) 大橋長官渡歐ノ際波蘭外務省當局トノ間ニ既ニ話合ヒモアルニ付波蘭國政府ハ同國內ニ滿洲國領事館開設ニ異議ナキ旨ヲ前記往復公文中ニ、又ハ別ノ公文(但シ本件措置ト同時ナルヲ要ス)ニ明カニスルコト

駐日滿洲國大使館

(三) 滿洲ハ今直チニ領事館ヲ開設セズ、追テ名譽領事ヲ任命スル程度ニ留ムル意嚮ニ付其旨口頭ヲ以テ先方ニ話サレ差支ナシ

(2) 右訓令ニ基キ直ニ駐日滿洲國大使館ハ外務省ニ連絡ノ上伊太利亞國總領事館開設承認ノ手續ニ準ジ

(一) 駐日波蘭國大使ヨリ駐日滿洲國大使宛書翰案一

(二) 駐日滿洲國大使ヨリ駐日波蘭國大使宛書翰案一

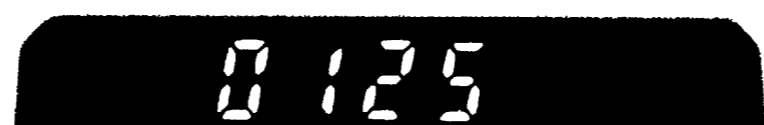
ノ二案ヲ作成シ同年十一月之ヲ滿洲國大使案トシテ非公式ニ外務省ニ提示シ其ノ斡旋ヲ求メタリ

(3) 同年十二月廿七日附神吉外務局長官發院大使宛外政三秘第一四四號ヲ以テ「駐哈波蘭領事更迭ニ關スル件」通報ニ接ス

通報ノ内容

(一) 十二月十四日駐哈波蘭領事「クウヤトコフスキー」ハ下村駐哈外務局特派員ヲ往訪シ同領事ハ本國政府ヨリ本國外務省へ

駐日滿洲國大使館



轉任ノ電命ニ接セルガ歸國ノ上ハ本省樞東關係擔當主務者ノ  
 席ニ就クノ旨

(二) 後任其他詳細ハ同月廿二日頃來哈スル駐日大使館一等書記官  
 「トラビンスキ」ノ着哈後判明スベシトノ旨

(三) 同領事ノ離哈歸國ハ明年二月一日ノ豫定ニシテ歸國ニ先立テ  
 新京ヘモ挨拶ニ出向スル意嚮ナリトノ旨

ヲ述ベ更ニ餘談トシテ後任領事來任ト共ニ駐哈波蘭國領事館ノ  
 滿洲國ニ對スル形式關係ハ合理化セラルルモノト思料スト洩セ  
 リ

(4) 然ル處本年一月六日、駐日波蘭大使ヨリ廣田外務大臣ニ對シ電書  
 ヲ附シ三個ノ波蘭國大使案、即チ

(一) 滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(A)

(二) 滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(B)

(三) 滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(C)

駐日滿洲國大使館

ヲ提示シ來レリ

(5) 右三個ノ案ハ一月十一日外務省ヨリ假譯文ヲ附シ滿洲國大使館ニ  
 回示シ來レリ、其ノ内容ヲ檢討スルニ次ノ如シ

波蘭國大使案ハ滿波兩國間ニ三個ノ公文ヲ交換セムトスルモノニ  
 シテ其ノ第一案ノ内容ハ

(一) 波蘭國政府ガ在哈爾濱同國領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑  
 ミ其ノ新任者ノ爲ニ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受領セムコトヲ希望  
 シ

且同政府ハ我國政府ガ「ワルソ」ニ我國領事館ヲ開設スル  
 場合之ニ對シ正常ノ條件ニ於テ且相互主義ニ依リ認可狀ヲ與  
 フル用意アル旨ヲ明カニセルモノニシテ(康德四年十二月廿  
 七日附外政三秘第一四四號駐哈波蘭領事更迭ニ關スル件参照)  
 其ノ第二案ノ内容ハ

(二) 右第一公文ニ關聯シ本任地ニ於ケル現任領事「アレキサン  
 ド

駐日滿洲國大使館



ル、クワイアコウスキ」ノ後任者トシテ特定者（未定）ヲ任命スルコトノ通知及右後任者ハ新京ニ赴キ委任狀ヲ呈示シ我國政府ノ認可狀ヲ受クルコト並ニ右ニ對シ我國政府ニ於テ異議ナキ旨ノ回答ニシテ其ノ第三案ノ内容ハ

(三) 第二公文ニ依リテ認可セラレタル波蘭國領事官憲ハ領事館ノ職務及權限、他方ノ領域内ニ居住スル兩國ノ一方ノ國民ノ財產、權利及利益並ニ滿波兩國間ノ經濟關係ノ諸問題ニ關シ兩國間ニ適當ナル協定成立スルニ至ル迄相互主義ヲ留保シ其ノ通商ノ權利、特權、職權及權限ニ付他ノ外國領事官憲ニ與ヘララル最惠國待遇ヲ享有スヘキコト

(四) 治外法權ニ關シテハ其ノ存スル限リ之ヲ除クノ旨

(五) 在滿波蘭國民ハ現狀範圍内ニ於テ相互主義ヲ留保シテ又治外法權ニ關シテハ其ノ存スル限リ之ヲ除外シテ入關、居住、職業、身分、親族、財產、權利、利益、讓許、國家的宗教的職

駐日滿洲國大使館

業的經濟的文化的及體育的事項ニ關スル團體、制度、運動及刊行ニ關シ裁判上、行政上、軍事上及治安上他ノ外國國民ニ與ヘララル最惠國待遇ヲ享有スヘキコト

(六) 且通商及經濟上ノ相互的協力ニ付テハ正式通商條約ガ締結ニ至ル迄兩國政府ハ最モ好意的取扱ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ

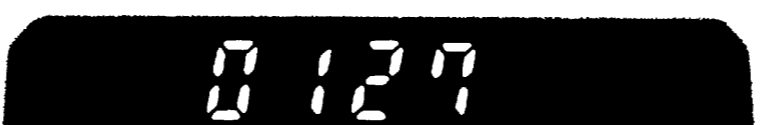
(七) 波蘭國政府ハ今後右取極ニ參加シ且之ニ應ズルノ用意アル旨ヲ明カニセルモノナリ

本案ハ我國政府ノ意嚮トハ甚ダシキ懸隔アリ殊ニ第三公文案ノ内容ニ於テハ

(一) 不必要ナル治外法權問題ニ觸レ居ル點

(二) 最惠國待遇ニ關スル各項ニ關聯シ土地所有權特ニ日本國國民ニ賦與セラレ居ル特權及特種待遇等ニ於テ複雜ナル關係ヲ生ジ來ルベク我國トシテハ右希望ノ全部ヲ應諾シ得ザル

駐日滿洲國大使館





モノト推測セラル  
(三)波蘭國側トシテハ在滿同國人ノ保護ニ關聯シ之等ノ點ニ特ニ重點ヲ置キ居ルモノノ如シ

電書假譯文

(一)波蘭大使ハ茲ニ滿波兩當事者ノ同意ヲ得バ滿洲國大使トノ間ニ交換セラルベキ提案ハ領事官ノ活動及滿洲國ニ於ケル波蘭國人民ノ地位並ニ波蘭國ニ於ケル滿洲國人民ノ地位ニ關スル凡ニ重要問題ヲ悉セルモノナリト思考ス  
(二)又波蘭國大使ハ其ノ提案ハ兩國間ニ開始セラルベキ諸關係ノ性質ヲ明確ニ定義スルモノト期待ス  
(三)尙說明迄ニ波蘭國大使ハ伊國ハ在羅馬波蘭總領事館ノ權限ガ他日「エチオピア」ノ地域ニ延長セラルベキヲ述ベタル駐羅馬大使館提出ノ外交文書ニ對シ非常ニ満足ノ意ヲ表シタル旨

駐日滿洲國大使館

ヲ附言ス

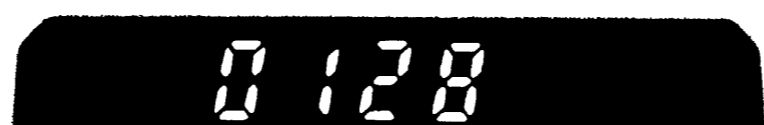
(四)此ノ行爲ハ伊國ノ戰機ニヨリ生レタル新事態ニ對スル波蘭ノ正式承認ナリト一般ニ思考セラレタリ、將又波蘭國大使ハ必ズヤ他ノ歐洲列強ガ波蘭國ノ先鞭ニ從ヒ且同様ノ精神ニ於テ滿洲國ト彼等ノ關係ヲ正常化シ得ル可能性ヲ考慮スベシト信ズルノ機熟ナル理由ヲ有ス

(6)右三個ノ案ハ同月十三日大使ヨリ國務總理大臣ニ報告セリ  
(7)然ル處一月十三日波蘭國大使ハ再ビ廣田外務大臣ヲ往訪シ「新任在哈波蘭國領事赴任方ニ關スル件」ニ付電書ヲ提出シ左ノ申入ヲ爲シタリ

電書

「今般波蘭國政府ニ於テハ前駐土大使館(土耳其)商務官「デヨルチ、リチウスキー」ヲ在哈爾濱同國領事ニ任命シ同領事ハ最近赴任ノ豫定ナル處同領事ハ目下滿波間ニ進行中ノ交渉終結

駐日滿洲國大使館



ノ上ハ滿洲國政府ニ對シ正式ニ認可狀ヲ請求スベキモノナルニ付滿洲國官憲ニ於テモ右ノ如キ領事ノ地位ニ相應セル待遇ヲ與ヘラレ度」

(8) 右申出ノ内容ハ翌十四日外務省ヨリ滿洲國大使館ニ通報アリタリ仍テ右内容ハ電書假譯文トシテ一月十四日大使ヨリ國務總理大臣ニ電報ヲ以テ報告セリ

(9) 然ル處二月三日附國務總理大臣發大使宛外政三秘第一九號ヲ以テ「滿洲國波蘭國領事館設置相互承認問題ニ關スル件」ノ訓令ヲ接受セリ、訓令ノ内容次ノ如シ

(一) 波蘭側提示ノ交換公文案中第一ニ付テハ暫照ノ「日本帝國政府ノ斡旋ノ下ニ」ナル字句ハ之ヲ削除シ

(二) 又「前記領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑ミ」ノ次ニ「今後更迭ノ都度」ナル字句ヲ挿入シ

(三) 更ニ滿洲國ガ將來波蘭國ニ開設スルコトアルベキ領事館ノ所

駐日滿洲國大使館

在地ヲ「ワルソ」ト決定セル次第ニアラズ具体的ノ場合波蘭側ノ了解ヲ得テ「ワルソ」以外ノ地ニ開クヤモ計リ難キヲ以テ「今後帝國政府ガワルソニ滿洲國領事館開設云々」トアル中ワルソノ文字ノ次ニ「又ハ其他ノ適當ナル地」ナル字句ヲ附加スルコトヲ條件トシテ滿洲國ハ波蘭側提示ノ案文ニヨリ公文ノ交換ヲ行フコトニ異議ナシ

(四) 波蘭側提示ノ公文案第三ニ關シテハ日本トノ特殊關係等ニモ鑑ミ此種内容ノ約定締結ニ付最モ慎重ナル考慮ヲ要スルノミナラズ公文案第三ハ第一及第二ノ公文ト切離スモ差支ナキモノナルヲ以テ此際此種公文ノ交換ニ應スルコトヲ得ズ

(五) 但シ滿洲國トシテハ正式國交關係樹立後相互的條件ノ下ニ領事條約乃至通商條約ノ締結ノ爲商議ヲ開始スルコトニハ異議ナク又右條約締結前ト雖モ波蘭領事及人民ニ對シ一般のニ差別待遇ヲ與フル意圖ナキコト勿論ナリ

駐日滿洲國大使館



(10) 右滿側意嚮ハ外務省ニ通報セラレタル結果二月四日附半公債ヲ以テ石射東亞局長ヨリ波蘭國大使館「ザレスキー」參事官宛滿波間領事關係問題ニ關スル書翰發セラレタリ、其ノ内容次ノ如シ

(一) 波滿間領事館設置相互承認ノ件ニ關シテハ一月六日「ロメー」大使ヨリ廣田外務大臣ニ對シ滿波兩國間ニ交換セラルベキ公文案ノ提示アリ、右提案ハ直ニ滿洲國政府ニ傳達致シ置キタル處今般同國政府ヨリ左ノ如キ應旨ノ回答ニ接セリ

(二) 第一交換公文案ニ付テハ冒頭ノ「日本帝國政府ノ斡旋ノ下ニ」ナル字句ハ之ヲ削除シ

(三) 又「前記領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑ミ」ノ次ニ「今後

駐日滿洲國大使館

更迭ノ都度」ナル字句ヲ挿入シ

(四) 又「今後貴國政府ガ「ワルソ」ニ滿洲國領事館開設云々」トアル中「ワルソ」ノ文字ノ次ニ「又ハ其他ノ地」ナル字句ヲ附加ス

(五) 第三交換公文案ニ付テハ現在此種公文ノ交換ニ應ズルコトヲ得ズ但滿側トシテハ正式國交關係樹立ノ後相互的條件ノ下ニ領事條約乃至通商條約ノ締結ノ爲商議ヲ開始スルコトニ異議ナク又右條約締結前ト雖モ波蘭國領事及人民ニ對シ一般的ニ差別的待遇ヲ與フルノ意圖ナキコト勿論ナリ

(六) 事情右ノ如クナルヲ以テ本官トシテハ今後本件ニ關スル交渉ハ貴大使館(波蘭)ニ於テ直接在京滿洲國大使館トノ間ニ進メラルルコト適當ナルヲ思考致シ居ル次第ニ有之

(11) 右「ザレスキー」參事官宛東亞局長ノ書翰寫ハ同日附ヲ以テ滿洲國大使館ニ傳達セラレタリ仍テ大使ヨリ二月八日國務總理大臣宛

駐日滿洲國大使館



報告セリ  
 (18) 二月九日「ザレスキー」参事官石射東亞局長ヲ往訪シ左ノ覺書(メモ)ヲ提出シ外務省ノ説明ヲ求メタリ

覺書假譯文  
 波滿間ノ領事關係問題ニ關スル二月四日附「ザレスキー」氏宛石射氏ノ書翰内容ニ關シ波蘭大使ハ本國政府ニ請訓ノ要アリト信スル次第ナリ、右措置スルニ先立テ上記書翰中ノ左ノ點ニ就キ説明ヲ得ムコトヲ希望ス

(一) 滿洲國政府ノ第一交換公文案中ニ於ケル「日本帝國政府ノ斡旋ノ下ニ」ナル字句ヲ削除シ度シトノ希望ハ外務省ノ意嚮ニモ合致スルモノナルヤ

(二) 滿洲國政府ハ第三交換公文案ノ交換ニ差當リ承諾ヲナシ得ザルヤニ觀取セラルル波蘭國ト如何ナル協定ノ締結スル前ト雖モ滿洲國ハ滿洲國ニ於ケル波蘭領事及波蘭國民ニ對シ一般

駐日滿洲國大使館

的ニ差別待遇ヲ與フルモノニアラストノ正式保證ヲ少クトモ與ヘムトスル用意アリヤ將又右用意アリトセバ如何ナル形式ニ依ラムトスルヤ

(三) 波蘭國大使館ガ今後滿洲國大使館ト直接商議ヲ續行スル機會ニ關スル石射氏ノ書翰末段ニ表明セラレタル指示ハ今後本問題ノ解決ニ關與セザラムトスル外務省ノ意嚮ヲ示サレタルモノナリヤ

右ニ對シ石射局長ヨリ

(一) ニ付テハ外務省ノ意嚮ニモ合致スル旨

(二) ニ付テハ局長ノ質問ニ對シ「ザ」参事官ハ協定案文中ニ記述セル治外法權ニ付テハ波蘭ハ支那ニ於テモ治外法權ナク滿洲國ニ於テモ治外法權ヲ享有セントスルモノニ非ザルハ勿論ナリト答ヘ更ニ局長ヨリ波蘭國側ノ要求セラルル最惠國待遇ナルモノハ日滿特殊關係ニ基キ滿洲國側ガ日本側ニ供與セル

駐日滿洲國大使館



特殊權益ニモ均霑セントスルモノナリヤト質問セルニ對シテ  
 參事官ハ右特殊權益迄モ均霑セントスル意嚮顯ナク要ハ獨  
 伊其他第三國トノ關係ニ於テ最惠國待遇ヲ與ヘラレシコトヲ  
 希望スルモノナリト述ベタルガ局長ハ右ノ意味ナラバ協定可  
 能ニ非スヤトモ思考セラルルモ兎ニ角滿備ニ傳フベキ旨  
 曰ノ點ニ付テハ外務省ハ無關心ニ非ザルハ勿論大ナル關心ヲ  
 有スルモノニシテ自然必要ニ應ジ問題解決方ユ付援助ヲ與フ  
 ルニ吝ナラザルモ唯手續並形式ノ問題トシテ滿洲國大使館ト  
 直接商議ヲ進メラレタレトノ意ナル旨夫々説明セラレタリ

(13) 右覺書及説明内容ハ外務省ヨリ通報アリタルニ依リ二月廿一日大  
 使ヨリ國務總理大臣宛報告セリ

(14) 然ル處二月十二日在京波蘭國大使館「チ」參事官ハ更ニ石射東亞  
 局長ヲ往訪シ同國大使私案トシテ左記ノ覺書ヲ提出シ申出ツ爲レ  
 タリ

駐日滿洲國大使館

覺書假譯文

(一) 波蘭國大使ハ本國政府ニ請訓スルニ先立テ〇案記載ノ波、滿  
 兩國領事關係ニ關スル諸問題ニ付明確ナラシメ置キ度キ點ヲ  
 有ス、右問題ハ波蘭國大使ノ最も重要視スル所ニシテ且右問  
 題ニ關シテハ波蘭國政府ニ於テモ波、滿兩國間ニ本件ニ關ス  
 ル條約ノ商議締結セララルニ至ル迄ノ過渡期ニ於テ而シテ過  
 渡期ナルガ故ニ大ナル重要性ヲ認ムルモノニ有之

(二) 波蘭國ハ國際聯盟加盟國中ノ原聯盟國ニシテ然モ率先滿洲國  
 トノ間ニ正常ノ領事關係ヲ設定スルノ「イニシアチヴ」ヲ  
 執ラントスルモノナル以上、又今回ノ波蘭國ノ先例ハ同國ト  
 同様ノ地位ニ在ル他外國ヲシテ之ニ倣ハシムルノ可能性アル  
 點ニ於テ滿洲國及日本國ノ希望ニ適合スルモノナル以上將又  
 波蘭國ハ滿洲國ニ對シ領事關係上ノ相互的待遇ヲ許與スルニ  
 吝ナラザルモノナル以上之ガ對價トシテ波蘭國ガ建國後日猶

駐日滿洲國大使館



淺ク且波蘭國ニトリテハ未知ノ國ナル滿洲國ニ對シ同國在住ノ波蘭國領事官及國民ニ與ヘラルヘキ待遇ニ付合理的ノ保障ヲ要求スルハ至極自然ノ理ニ有之

(三)然リト雖モ波蘭國ハ治外法權の特權ヲ要求スルニ非サルハ勿論ノ儀ニシテ同國ハ主義上未ダ如何ナル國ニ對シテモ右ノ如キ特權ヲ要求シタルコト無之

(四)波蘭國ハ滿洲國ニ對シ特別ノ利害關係ヲ有シ從テ特殊ノ地位ヲ占ムル日本國ト同様ノ取扱ヲ滿洲國ニ於テ享有セントノ意圖ヲ毛頭有セザルモノニ有之

(五)唯波蘭國ノ欲求スルハ單ニ同國領事官及國民ガ滿洲國內ニ於テ他外國例ヘバ獨、伊ノ領事官及國民ニ比シ不利ナル待遇ヲ受クルコトナキ旨ノ保障ニ過ギズ

(六)仍テ波蘭國大使ハ同大使ト滿洲國大使トノ間ニ交換セラルベキ公文〇案中三個ノ撮記事項ノ次ニ左ノ一項ヲ附加シ同案ヲ

駐日滿洲國大使館

維持センコトヲ提議ス

「滿洲國ノ隣接國ノ一ガ其ノ特殊地位ニ鑑ミ滿洲國ニ於テ特定ノ特權ヲ享有スルコトアリ且右特權ガ法律上將又事實上他ノ如何ナル國ニモ及ブコトナキトキハ波蘭國政府ハ前請項ニ據グラルル場合滿洲國ノ隣接國トノ關係ニ於テ最惠國民條款ヲ援用スルコトナカルベキハ勿論ナリトス」

(15) 右證書ノ内容ハ外務省ヨリ通報アリタルニ依リ二月廿一日大使ヨリ國務總理大臣宛報告セリ

(16) 二月廿二日附ヲ以テ滿洲國領事館設置相互承認ニ關スル件ニ付駐

駐日滿洲國大使館

(二十頁ハ缺)



滿日本大使館山本一等書記官ヨリ外務局龜山政務處長ニ對シ滿側  
 意圖ヲ照會アリ  
 (17) 右照會ニ對シ三月五日附ヲ以テ龜山政務處長ヨリ山本一等書記官  
 ニ對シ滿側意圖ヲ回答セリ  
 (18) 三月七日附國務總理大臣發駐日大使宛外政三秘第四四號ヲ以テ前  
 ニ龜山政務處長ヨリ山本書記官ニ回答シタル滿波間領事館設置相  
 互承認ニ關スル件ノ滿側意圖ヲ通報アリ旁々右意圖ニ從ヒ可然處  
 置方訓令ニ接ス、内容次ノ如シ  
 (一) 滿洲國政府ニ於テハ現在ニ於ケル常關ノ國際的地位ノ複雜性  
 ニ鑑ミ其ノ一般的方向トシテ差當リ最惠國待遇ニ關スル規定  
 ヲ外國トノ約定又ハ取極中ニ包含スルコトハ差控ヘ度  
 (二) 滿洲國內ニ於ケル外國領事及人民ノ地位ニ關シ正式ニ承認シ  
 タル國ト英佛ノ如ク全然承認セザル國トノ間ニ法律上並ニ事  
 實上差別待遇ノアルベキハ勿論ノコトナガラ波蘭ノ如ク正式

駐日滿洲國大使館

ノ承認トハ言ヒ得ザルモ事實上ノ承認乃至默示的承認ヲナシ  
 タリト言ヒ得ベキ程度ノ特殊關係ニアル國ニ對シテハ親交ヲ  
 維持増進セントノ希望ヨリ之ヲ好遇スベキコト亦勿論ニテ事  
 實上ニ於テハ正式承認國ト略同様ノ待遇ヲ恩惠的ニ與フベキ  
 モ  
 (三) 滿洲國政府トシテハ之ヲ明文上ノ義務トシテ承認スルコトハ  
 正式承認國トノ關係上好マシカラザルニ付最惠國待遇ノ問題  
 ニハ今暫ク觸レザルコトト致度  
 但シ波蘭領事及人民ニ對シ一般的不利ナル差別待遇ヲ與フ  
 ルノ意圖ナキコト勿論ナリ  
 (19) 三月廿二日外務省ハ「チレスキ」參事官ヲ招致シ石射東亞局長  
 不在ノ爲其ノ代理者(瀧川東亞第三課長)ヨリ「チ」參事官ニ左  
 記ノ覺書ヲ手交シ猶補足的ニ同一趣旨ヲ繰返シ傳ヘタリ  
 覺書譯文

駐日滿洲國大使館



(一) 二月十二日在京波蘭國大使館「ザレスキ」參事官ヨリ石射東亞局長ニ對シ手交セラレタル電書ニ依リ申越ノ次第ニ付テハ直ニ滿洲國側ニ傳達シ其ノ意圖問合セ中ナリシ處回答アリ

(二) 右回答ニ依レバ滿洲國トシテハ全然未承認國ニ對スルト異リ波蘭國ノ如ク正式ノ承認トハ言ヒ得ザルモ事實上ノ承認乃至默示的承認ヲ爲シタリト言ヒ得ベキ程度ノ特殊關係ヲ結バン

トスル國ノ領事官及人民ニ對シテハ兩國親交ヲ維持増進セントノ希望ヨリ之ヲ好遇スベキコト勿論ニシテ事實上ニ於テハ正式承認國ト略同様ノ待遇ヲ與フベキモ之ヲ明文上ノ義務トシテ承認スルコトハ正式承認國トノ關係上好マシカラザルニ付最惠國待遇ニハ今暫ク觸レザルコトト致慮速ナリ

(20) 右電書及補足的談話ノ内容ハ外務省ヨリ通報アリタルニ依リ三月廿四日大使ヨリ國務總理大臣宛報告セリ

(21) 然ル處三月廿六日「ザレスキ」參事官ハ外務省ニ石射東亞局長

駐日滿洲國大使館

ヲ往訪シ左記電書ヲ手交シタル後更ニ次ノ事項ヲ補足的ニ述ベタリ

電書假譯文

(一) 波滿間領事關係正規化ニ關シ外務省東亞局長ヨリ波蘭國大使館「ザ」參事官ニ宛テラレタル三月廿二日附「エーヴ、メモアール」ヲ受領シタル處波蘭國大使ハ交換公文案〇中ノ最惠國條款ヲ商議中ノ取極ヨリ除外セントスル滿洲國政府主張ノ論旨ニ贊同シ得ザルコトヲ深ク遺憾トス

(二) 波蘭大使ハ目下波滿相互間ニ維持セラレ居ル深キ好意ハ之ヲ別トシテ當方トシテハ滿洲國ニ於ケル波蘭國領事官及其ノ國民ノ權利及特權ハ千九百二十九年九月十八日南京ニ於テ署名セラレタル支波友好通商航海條約ノ諸規定ニ由來スルモノト見做サルベキコトヲ指摘スルノ自由ヲ有スルモノニ有之

(三) 右ニ關シテハ滿洲國自身モ其ノ建國當初ヨリ第三國ノ權益ニ

駐日滿洲國大使館





關スル契約上ノ諸義務及領土ト共ニ舊領土權者ヨリ承繼シタ  
ル義務ノ繼續性ノ原則ヲ認メタルモノニ有之

(四) 尤モ波蘭國政府ハ現狀ノ斯カル法律的解釋ガ事實上如何ニ不  
自然ニシテ且滿洲國ノ現在ノ利益ニ如何ニ適合セザルモノナ  
ルカラ認ムルニ躊躇セザリシモノニ有之

(五) 且波蘭國政府ハ困難ナル幾多ノ障害アルニモ拘ラズ波滿兩國  
間直接協定ノ方法ニ依リ原則トシテ右ノ狀態ヲ正規化スベキ  
意向アル旨聲明致シタル次第ニ有之右ハ日本國政府ノ幹旋ニ  
依リ波蘭國大使ニ依リ開始セラレタル商議ノ原因且目的タリ  
シモノニ有之

(六) 斯カル狀態ニアリテハ波蘭國政府ノ明白ナル善意ガ結果トシ  
テハ交換的ニ新シキ保障ヲ取付タルコトナシニ滿洲國ニ於ケ  
ル波蘭國領事官及其ノ國民ノ權利及特權ノ本原的法的根據ノ  
一切ノ外觀ヲ決定的ニ削除セル協定ヲ有スルコトナリ甚ク

駐日滿洲國大使館

變則的ナル様相ヲ呈スベク

(七) 波蘭國大使ハ滿洲國政府ガ滿洲國ヲ正式ニ承認シタル諸國ノ  
領事官及國民ニ許與スルト略同様ノ取扱ヲ波蘭國領事官及其  
ノ國民ニ對シテ事實上許與スベキ旨申出サレタル中ニ右新保  
證ヲ發見シ得ザルヲ遺憾トス

(八) 他方波蘭國大使ハ共和國大統領領内閣議長及外務大臣ノ署名ア  
リ且波蘭國共和國ノ國璽ヲ捺セル公文中ニ滿洲國ト明示的  
ニ記載セル場合一在哈爾濱新波蘭國領事ニ交附スベキ領事委  
任狀ノ如キ一ハ波蘭國ノ滿洲國正式承認ヲ構成スルモノナリ  
ヤ否ヤノ判斷ニ付テハ右ハ滿洲國政府ニ專屬スベキモノト思  
考ス

(九) 又時節ノ到來セシ時波滿間領事關係ノ法律上及事實上ノ正規  
化ト共ニ右文書ヲモ公表スルヲ可トスルヤ又ハ寧ロ頑強ナル  
其他ノ諸國ヲシテ波蘭國ノ例ニ沿從セシムル爲差當リ之カ公

駐日滿洲國大使館



「ザ」参事官ヨリ

(一) 今回駐哈新任領事「チヨルジ、リチウスキー」氏ガ持参シタル委任狀ハ大統領及外務大臣ガ署名シテ國蓋ヲ捺シタルモノニシテ滿洲國政府ニ呈示セントスルモノナリ

(二) 之ニ依ツテ見ルモ波蘭國ガ滿洲國ヲ正式ニ承認シタルモノトモ考ヘ得ラルベシ、滿洲國ガ之ヲ以テ波蘭國ガ滿洲國ヲ承認シタルモノト解釋セラルルハ自由ニシテ滿洲國側ニ於テ正式承認ト認メラルルモ波蘭國トシテハ差支ナシ

(三) 波蘭國ハ列國ニ先シテ國際聯盟加入國中ノ「バイオニヤ」トシテ今回ノ措置ニ出デムトスルモノニシテ英國ノ新任領事モ近ク滿洲國ニ赴任スルヤニモ聞キ及ビ層ルモ右波蘭國ノ措置ハ列國ニ不安(脅威)ヲ與フルコトナルベシ

(四) 波蘭國ハ斯カル波蘭國ノ滿洲國ニ對スル態度ニ鑑ミ滿洲國ガ波蘭國ニ對シ正式承認國ト同等ノ最惠國待遇ヲ與ヘラレシコ

駐日滿洲國大使館

表ヲ差控フルヲ可トスルヤニ付テモ滿洲國政府ニ於テ之ヲ決定セラルヘキモノニ有之

(十) 之ヲ要スルニ波蘭國大使ハ機密交換公文ヲ以テ滿洲國ニ締結セラルル協定ガ既ニ滿洲國ヲ正式ニ承認シタル諸國ノ享有スルモノト同様ナル或種ノ權利ヲ相互的ニ滿洲國ガ波蘭國ニ許與スル事實ガ如何ナル第三國ノ障害トモナラザルベシト思考ス

(十一) 仍テ波蘭國大使ハ自國政府ヨリ受ケタル訓令ニ基キ商議中ノ協定公文案〇中ニ相互的最惠國條款ヲ挿入スルコトニ付滿洲國政府ノ好意ニ切ニ訴ヘントスルモノニ有之前記趣旨ニ基キ完全ニ正當ナリト認メラルル當方ノ上記決意ハ商議ノ進行ヲ特ニ裨益シ且兩國政府共満足シテ其ノ眞摯ナル友好關係ヲ立證スル協定ノ迅速ナル締結ヲ可能ナラシムルモノニ有之

補足的事項

駐日滿洲國大使館



トヲ希望ス、正式承認國ニ對スルト略同様ノ待遇ヲ與ヘラ  
ル程度ニテハ満足シ得ズ

右ニ對シ石射局長ヨリ

(一) 最惠國待遇ガ與ヘラレザル場合新任領事ハ持參ノ委任狀ヲ滿  
洲國政府ニ提出スルヤ又ハセザルヤ

右ニ對シ「ヂ」參事官ヨリ

(一) 最惠國待遇ガ與ヘラレザル場合ハ委任狀ノ提出困難ナルハレ  
右ニ對シ石射局長ヨリ

(一) 正式ノ承認ト解釋スルハ自由ナリト言ハルモ正式承認國間  
ニハ公使ノ交換アリ、波蘭國ハ公使ノ交換可能ナリヤ

右ニ對シ「ヂ」參事官ヨリ

(一) ソレハ不可能ナリ

ト答フ

(22) 右證書及補足的事項ノ内容ニ關シ外務省ヨリ通報アリタルニ依リ

駐日滿洲國大使館

(23) 三月廿九日大使ヨリ秘書一四二號ヲ以テ國務總理大臣ニ報告セリ  
斯カル折柄在京波蘭國大使「タチエ、ド、ロメール」氏ハ三月廿  
八日正午豫テ出京中ノ駐哈新任波蘭國領事「リチウスキ」氏ヲ  
帶同シ滿洲國大使館ニ既大使ヲ往訪シ同新任領事ヲ紹介券々「レ  
セ、パッセ」及免稅通關許可證等ヲ要求シ且旅行斡旋ヲ懇望セラ  
レタリ仍テ大使館ニ於テハ充分ニ斡旋スルコトトシ夫々必要ナル  
措置ヲ執レリ

右波蘭國大使ノ往訪ハ初メ「チ」ノコトニシテ會談内容次ノ如シ

波大使 本日ハ特ニ駐哈新任領事ヲ帶同シタルニ依リ貴大使ニ御紹  
介致度

滿大使 閣下ノ來訪ニ對シ謝意ヲ表シ、貴領事ハ會テ哈爾濱ニ參ラ  
レシコトアリヤ

波領事 板東ニ參リシハ今回ガ初メナリ、以前ハ近東主トシテ土

駐日滿洲國大使館

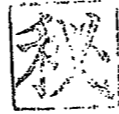
耳其、伊瑞、羅馬尼等ノ地方ニ長年滞在セリ  
 波大使 領事ハ今回本國政府及本使ノ訓令ヲ受ケテ赴任スルモノナ  
 リ、着任後ハ現在ノ滿波間ノ關係ヲ更ニ敦睦ナラシムベク  
 努力スベシ、領事個人トシテ亦氏ノ抱負ヲ有シ居レリ  
 滿大使 本使モ亦滿波兩國關係ガ將來貴大使及貴領事ノ御努力ニ依  
 リ更ニ一層敦睦ヲ加フルニ至ルベキヲ切望シテ已マズ  
 波大使 若シ將來ニ於テ互惠主義（相互主義）ニ基キ滿波兩國ノ經  
 濟關係ヲ愈々鞏固トナシ得バ其他ノ關係ハ自ラ圓滿ニ進歩  
 スルモノト信ズ  
 滿大使 互惠主義ニ基キ兩國ノ經濟關係ヲ鞏固ニシ更ニ其他ノ關係  
 モ夫ニ依ツテ圓滿ニ運ビ得ルコトハ本使ノ最モ切望スルト  
 コロニシテ貴大使及貴領事ノ御努力ニ依リ成就センコトヲ  
 期待ス  
 尙「リ」新任領事ハ三月卅一日東京發ノ「富士」ニテ離京、四月

駐日滿洲國大使館

(24) 前項ノ内容ハ四月四日大使ヨリ國務總理大臣宛報告セリ  
 二日安東ヨリ入國シ任地ニ直行ノ豫定ニテ哈爾濱ニ着任公務處理  
 ノ上ハ十日頃新京ニ赴キ外務局ニ對シ正式ニ委任狀ヲ提出スル豫  
 定ニテ其ノ節在滿波兩國人ノ待遇問題等ニ關シ談合スル趣ナリ  
 （交渉經過第一輯完）

駐日滿洲國大使館





滿洲國大使案(未呈)

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(A)

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通通報有之候

「閣下ト本使トノ間ニ行ハレタル意見ノ交換ニ引續キ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本國政府ハ在哈爾濱波蘭國領事館ノ法律上ノ地位カ貴我兩國間ノ適當ナル協定ニ依リ確定セララルニ至ル迄之ヲ正常ナラシメンコトヲ希望シ前記領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑ミ今後更迭ノ都度其ノ新任者ノ爲ニ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受領センコトヲ欲スルモノナルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

外務省

18.8

尙本使ハ茲ニ本國政府ノ命ニ依リ同政府ハ今後貴國政府カワルソ

「又ハ其ノ他ノ適當ナル地ニ滿洲國領事館ヲ開設スルコトヲ考慮セララル場合波蘭國ニ於ケル帝國領事ノ爲ニ認可狀ヲ請求セララルニ於テハ正常ノ條件ニ於テ且相互主義ニ依リ之ニ應スルノ用意アルコトヲ閣下ニ向ツテ宣言スルモノナリ」

本使ハ右通報ヲ受領スルト共ニ本國政府ノ名ニ於テ右通報ノ内容ヲ受諾スルノ權利ヲ附與セラレタルコトヲ茲ニ宣言スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

外務省

18.8



滿洲國大使案

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(B)

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通通報有之候

一閣下ト本使トノ間ニ本日附ヲ以テ行ハレタル在哈爾濱波蘭國領事館ノ法律的地位ヲ相互主義ニ依リ正常ナラシメンコトヲ目的トスル書翰ノ交換ニ關シ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本任地ニ於ケル現任者アレキサンドル・クウイアコウスキノ後任トシテ本國政府ハ……：ヲ哈爾濱駐在波蘭國領事ニ任命シタルコトヲ貴國政府ニ通達セラレンコトヲ依頼スルノ光榮ヲ有ス……ハ……日着任スヘ

18.3

外務省

ク新京ニ赴キ同地ニ於テ委任狀ヲ呈示シ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受クヘシ」

本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ其ノ内容ハ之ヲ早速本國政府ニ通達シ置キタリ

前記書翰ノ内容ニ關シテハ滿洲帝國政府ハ閣下ノ政府ト全ク同意ナル旨及滿洲帝國政府ハ……氏カ新京ニ來リ委任狀ヲ呈示セララルニ於テハ在哈爾濱波蘭國領事ノ資格ニ於テ……氏ニ對シ認可狀ヲ交付スヘキ旨閣下ヲ通シ貴國政府ニ御通報相成度右依頼申進候本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

18.3

外務省

秘

寫

秘

滿洲國大使案（傳譯）

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答（C）

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通通報有之候

「本日附ヲ以テ閣下ト本使トノ間ニ行ハレタル書翰ノ交換ノ形式ヲ以テ成立シタル取極ニ基キ貴我兩國政府ハ夫々相互主義ニ依リ領事館ノ法律的地位ヲ正常ナラシメンコトヲ協定シタリ領事館ノ職務及權限、他方ノ領域内ニ居住スル兩國ノ一方ノ國民ノ財產、權利及利益竝ニ波蘭國及滿洲國間ノ經濟關係ノ諸問題ニ關シ貴我兩國間ニ適當ナル協定ノ成立スルニ至ル迄兩國政府間ニ於テ左記ノ

外務省

13.1

通了解スヘキモノトス

一、滿洲帝國及波蘭國ハ各自國ニ駐在スル相手國領事官憲ニ對シ相互主義ニヨリ其ノ特權、職權及權限ニ付他ノ外國領事官憲ニ與ヘラルル最惠國待遇ヲ與フヘシ

二、滿洲國及波蘭國ハ各相手國ノ國民ニ對シ相互主義ニヨリ左記ニ關シ現狀ノ範圍内ニ於テ他ノ國民ニ許容セラレ居ル最惠國待遇ヲ與フヘシ

入國、居住、職業

身分及親族

財產、權利及讓許

國民的、家族的、經濟的、文化的及體育的事項ニ關スル團體

外務省

13.1

機關、運動及出版

但シ滿洲國カ正式國交關係ヲ有スル國家ノ國民ニ對シ右國交關係ノ存在スル事實ニ基キテ許與シ又ハ將來許與スルコトアルヘキ特別ナル權利、特典及利益ニ付テハ波蘭國ハ滿洲國トノ間ニ同様ノ正式國交關係ヲ樹立スルニ至ル迄之ヲ要求スルコトヲ得ス

三、前記各項ニ規定シタル最惠國待遇ノ原則ハ滿洲國カ特殊の關係ニ基キテ同盟國又ハ其他ノ隣接國及其ノ國民ニ對シ許與シ又ハ將來許與スルコトアルヘキ特別ナル權利特典及利益ニハ及ホササルモノトス但シ此等ノ權利、特典及利益ニシテ他ノ第三國及其ノ國民ニ對シ許與セラレタル場合ニハ第二項ノ一般原則ニ依ル

外務省

13.1

四、通商及經濟上ノ相互的協力ニ付テハ通商條約カ本件ニ關スル兩國間ノ關係ヲ正規ニ規定シ且之ヲ良好ナラシムルニ至ル迄兩國

政府ハ最モ好意的ニ之ヲ取扱フモノトス

波蘭國政府ハ爾今上記取極ニ從フノ用意アル旨貴國政府ニ通報相成度本拙翰ニ對スル回答トシテ閣下ハ貴國政府ノ名ニ於テ之ヲ受領セラレンコトヲ茲ニ依頼スルノ光榮ヲ有ス

本國政府ノ名ニ於テ右通報ノ事項ヲ受諾スルノ權利ヲ附與セラレタルコトヲ茲ニ宣言スル本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有ス  
本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候  
敬具

外務省

13.1





秘 波蘭大使案（假譯）

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(A)

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通り通報有之候

「日本帝國政府ノ斡旋ノ下ニ閣下ト本使トノ間ニ行ハレタル意見ノ交換ニ引續キ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本國政府ハ在哈爾濱波蘭領事館ノ法律上ノ地位カ貴我兩國間ノ適當ナル協定ニ依リ確定セラ  
ルルニ至ル迄之ヲ正常ナラシメンコトヲ希望シ前記領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑ミ其ノ新任者ノ爲ニ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受領  
センコトヲ欲スルモノナルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

外 務 省

18.8

尙本使ハ茲ニ本國政府ノ命ニ依リ同政府ハ今後貴國政府カ「ワル

ソ」ニ滿洲國領事館ヲ開設スルコトヲ考慮セララルル場合波蘭國ニ於ケル帝國領事ノ爲ニ認可狀ヲ請求セララルルニ於テハ正常ノ條件ニ於テ且相互主義ニ依リ之ニ應スルノ用意アルコトヲ閣下ニ向ツテ宣言スルモノナリ」

本使ハ右通報ヲ受領スルト共ニ本國政府ノ名ニ於テ右通報ノ内容ヲ受諾スルノ權利ヲ附與セラレタルコトヲ茲ニ宣言スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

外 務 省

18.8



波蘭大使案（假譯）

滿洲大使ヨリ波蘭國大使宛回答(B)

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通り通報有之候

「閣下ト本使トノ間ニ本日附ヲ以テ行ハレタル在哈爾濱波蘭國領事館ノ法律的地位ヲ相互主義ニ依リ正常ナラシメンコトヲ目的トスル書翰ノ交換ニ關シ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本任地ニ於ケル現任者「アレキサンドル、クウイアコウスキ」ノ後任トシテ本國政府ハ、、、ヲ哈爾濱駐在波蘭國領事ニ任命シタルコトヲ貴國政府ニ傳達セラレンコトヲ依頼スルノ光榮ヲ有ス、、、ハ、、日着任

外務省

スヘク新京ニ赴キ同地ニ於テ委任狀ヲ呈示シ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受クヘシ」

本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ其ノ内容ハ之ヲ早速本國政府ニ傳達シ置キタリ

前記書翰ノ内容ニ關シテハ滿洲帝國政府ハ閣下ノ政府ト全ク同意ナル旨及滿洲帝國政府ハ、、、氏カ新京ニ來リ委任狀ヲ呈示セララルニ於テハ在哈爾濱波蘭國領事ノ資格ニ於テ、、、氏ニ對シ認可狀ヲ交付スヘキ旨閣下ヲ通シ貴國政府ニ御通報相成度ク右依頼申進候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

外務省



秘 波蘭大使案（假譯）

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答（Q）

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通達報有之候

「日本帝國政府ノ斡旋ノ下ニ本日附ヲ以テ閣下ト本使トノ間ニ行ハ  
レタル書翰ノ交換ノ形式ヲ以テ成立シタル取極ニ基キ貴我兩國政  
府ハ夫々相互主義ニ依リ在哈爾濱波蘭國領事館ノ法律的地位ヲ正  
常ナラシメンコトヲ協定シタリ領事館ノ職務及權限、他方ノ領域  
内ニ居住スル兩國ノ一方ノ國民ノ財産、權利及利益竝ニ波蘭國及  
滿洲國間ノ經濟關係ノ諸問題ニ關シ貴我兩國間ニ適當ナル協定ヲ

外 務 省

18.3

成立スルニ至ル迄兩國政府間ニ左記ノ通り了解ヲ遂クルモノトス

一、滿洲帝國ノ認可狀ヲ有スル滿洲國駐在波蘭國領事官憲ハ波蘭ニ  
付相互主義ヲ留保シ具ノ通常ノ權利、特權、職權及權限ニ付他  
ノ外國領事官憲ニ與ヘラシムル最惠國待遇ヲ享有スヘシ但シ治外  
法權ニ關シテハ其ノ存スル限り之ヲ除ク

二、滿洲國ニ於ケル波蘭國國民ハ現狀範圍内ニ於テ又波蘭國ニ付相  
互主義ヲ留保シテ又治外法權ニ關シテハ其ノ存スル限り之ヲ除  
外シテ入國、居住、職業、身分、親族、財産、權利、利益、讓  
許、國家的宗教的職業的經濟的文化的及體育的事項ニ關スル國  
體、制度、運動及刊行ニ關シ裁判上行政上軍事上及治安上他ノ  
外國國民ニ與ヘラルル最惠國待遇ヲ享有スヘシ

外 務 省

18.3





三 通商及經濟上ノ相互的協力ニ付テハ通商條約カ本件ニ關スル兩國間ノ關係ヲ促進スル目的ヲ以テ正規ニ締結セラルルニ至ル迄兩國政府ハ最モ好意的ニ之ヲ取扱フモノトス

波蘭國政府ハ今後右取極ニ參加シ且之ニ應スルノ用意アル旨貴國政府ニ通報相成度ク本拙翰ニ對スル回答トシテ閣下ハ貴國政府ノ名ニ於テ之ヲ受領セラレンコトヲ茲茲御依頼スルノ光榮ヲ有ス

本國政府ノ名ニ於テ前項ヲ受諾スルノ權利ヲ附與セラレタルコトヲ茲ニ宣言スル本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有ス

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

外務省

滿洲國大使案

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答(A)

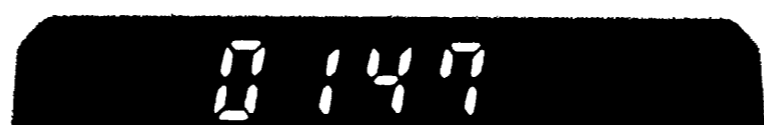
東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通通報有之候

「閣下ト本使トノ間ニ行ハレタル意見ノ交換ニ引續キ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本國政府ハ在哈爾濱波蘭國領事館ノ法律上ノ地位カ貴我兩國間ノ適當ナル協定ニ依リ確定セラルルニ至ル迄之ヲ正常ナラシメンコトヲ希望シ前記領事館ノ館長ニ最近移動アルニ鑑ミ今後更迭ノ都度其ノ新任者ノ爲ニ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受領センコトヲ欲スルモノナルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

外務省



尚本使ハ茲ニ本國政府ノ命ニ依リ同政府ハ今後貴國政府カワルソ  
 一又ハ其ノ他ノ適當ナル地ニ滿洲國領事館ヲ開設スルコトヲ考慮  
 セラルル場合波蘭國ニ於ケル帝國領事ノ爲ニ認可狀ヲ請求セラル  
 ルニ於テハ止常ノ條件ニ於テ且相互主義ニ依リ之ニ應スルノ用意  
 アルコトヲ閣下ニ同ツテ宣言スルモノナリ

本使ハ右通報ヲ受領スルト共ニ本國政府ノ名ニ於テ右通報ノ内容ヲ  
 受諾スルノ権利ヲ附與セラレタルコトヲ茲ニ宣言スルノ光榮ヲ有シ  
 候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ同テ敬意ヲ表シ候 敬具

外務省

18.8

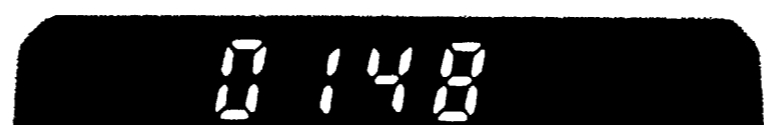
滿洲國大使案  
 滿洲大使ヨリ波蘭國大使宛回答(B)  
 東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通報有之候  
 一閣下ト本使トノ間ニ本日附ヲ以テ行ハレタル在哈爾濱波蘭國領事  
 館ノ法律的地位ヲ相互主義ニ依リ正常ナラシメンコトヲ目的トス  
 ル書翰ノ交換ニ關シ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ本任地ニ於ケル現任者  
 アレキサンドル・クウイアコウスキノ後任トシテ本國政府ハ……  
 ……ヲ哈爾濱駐在波蘭國領事ニ任命シタルコトヲ貴國政府ニ通達  
 セラレンコトヲ依頼スルノ光榮ヲ有ス……ハ……日着任スヘ

外務省

18.8



ク新京ニ赴キ同地ニ於テ委任狀ヲ呈示シ滿洲帝國ノ認可狀ヲ受ク  
ハシ」  
本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ其ノ内容ハ之ヲ早速本國政府  
ニ通達シ置キタリ  
前記書翰ノ内容ニ關シテハ滿洲帝國政府ハ閣下ノ政府ト全ク同意ナ  
ル旨及滿洲帝國政府ハ……氏カ新京ニ來リ委任狀ヲ呈示セラル  
ルニ於テハ在哈爾濱波蘭國領事ノ資格ニ於テ……氏ニ對シ認可  
狀ヲ交付スヘキ旨閣下ヲ通シ貴國政府ニ御通報相成度右依頼申進候  
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候  
敬 具

外務省

13.3

祕

滿洲國大使案（下條譯）

滿洲國大使ヨリ波蘭國大使宛回答（〇）

東京ニ於テ

年 月 日

本日附書翰ヲ以テ閣下ヨリ本使宛左記ノ通報有之候  
「本日附ヲ以テ閣下ト本使トノ間ニ行ハレタル書翰ノ交換ノ形式ヲ  
以テ成立シタル取極ニ基キ貴我兩國政府ハ夫々相互主義ニ依リ領  
事館ノ法律的地位ヲ正常ナラシメントテ協定シタリ領事館ノ職  
務及權限、他方ノ領域内ニ居住スル兩國ノ一方ノ國民ノ財産、權  
利及利益竝ニ波蘭國及滿洲國間ノ經濟關係ノ諸問題ニ關シ貴我兩  
國間ニ適當ナル協定ノ成立スルニ至ル迄兩國政府間ニ於テ左記ノ

13.1

外務省

通了解スヘキモノトス

一、滿洲帝國及波蘭國ハ各自國ニ駐在スル相手國領事官憲ニ對シ相互主義ニヨリ其ノ特權、職權及權限ニ付他ノ外國領事官憲ニ與ヘラルル最惠國待遇ヲ與フヘシ

二、滿洲國及波蘭國ハ各相手國ノ國民ニ對シ相互主義ニヨリ左記ニ關シ現狀ノ範圍内ニ於テ他ノ國民ニ許容セラレ居ル最惠國待遇ヲ與フヘシ

入國、居住、職業

身分及親族

財産、權利及讓許

國民的、家族的、經濟的、文化的及體育的事項ニ關スル團體

外務省

13.1

機關、運動及出版

但シ滿洲國カ正式國交關係ヲ有スル國家ノ國民ニ對シ右國交關係ノ存在スル事實ニ基キテ許與シ又ハ將來許與スルコトアルヘキ特別ナル權利、特典及利益ニ付テハ波蘭國ハ滿洲國トノ間ニ同様ノ正式國交關係ヲ樹立スルニ至ル迄之ヲ要求スルコトヲ得ス

三、前記各項ニ規定シタル最惠國待遇ノ原則ハ滿洲國カ特殊の關係ニ基キテ同盟國又ハ其他ノ隣接國及其ノ國民ニ對シ許與シ又ハ將來許與スルヲトアルヘキ特別ナル權利特典及利益ニハ及ボササルモノトス但シ此等ノ權利、特典及利益ニシテ他ノ第三國及其ノ國民ニ對シ許與セラレタル場合ニハ第二項ノ一般原則ニ依ル

外務省

13.1



四通商及經濟上ノ相互的協力ニ付テハ通商條約カ本件ニ關スル兩  
 國間ノ關係ヲ正規ニ規定シ且之ヲ良好ナラシムルニ至ル迄兩國  
 政府ハ最モ好意的ニ之ヲ取扱フモノトス  
 波蘭國政府ハ爾今上記取極ニ從フノ用意アル旨貴國政府ニ通報相  
 成度本拙翰ニ對スル回答トシテ閣下ハ貴國政府ノ名ニ於テ之ヲ受  
 領セラレンコトヲ茲ニ依頼スルノ光榮ヲ有ス  
 本國政府ノ名ニ於テ右通報ノ事項ヲ受諾スルノ權利ヲ附與セラレタ  
 ルコトヲ茲ニ宣言スル本使ハ右通報ヲ受領スルノ光榮ヲ有ス  
 本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

外務省

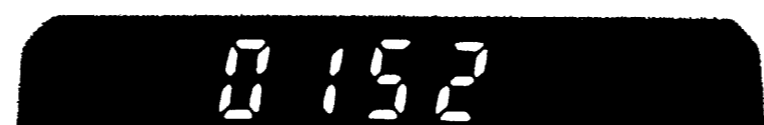
13.1

昭和十三年四月

國家ノ承認ト第三國ニ依ル領事ノ任命

(立博士稿)

條約局第二課





國家ノ承認ト第三國ニ依ル領事ノ任命

國家ノ承認ノ方法ニ明示の方法トヲ存ス。明示の方法ニ依ル承認ハ、承認國ニ依ル承認ノ單獨的宣言ニ依ルコトアリ、又承認國ノ加ハル所ノ條約中ノ明文ニ依ルコトアリ。承認ニ關スル明文ヲ有スル條約ガ結バルルトキハ、假令被承認國ガ之ニ加ハラザルモ、條約締約國ノ承認ノ意思ガ明示サルルヲ以テ、明示的承認ヲ存スルト爲スベキナリ。被承認國ノ加ハル所ノ條約中ニ於テ他ノ條約締結國ノ承認ノ意思ガ明示サルル場合ニ於テ、條約ノ批准ヲ須タズシテ、談判ニ關シテ正式ノ交渉ガ行ハレ、新國ガ國際法上ノ國家トシテ取扱ハルルトキヨリ、已ニ默示的承認ヲ存スルト爲スノ説アリ是等ノ説ハ、國際團體内ノ一國ノ全權委員ガ上述ノ如キ條約ノ締結ノ爲メノ談判ヲ行フノ目的ヲ以テ、正式ノ全權委任狀ヲ得テ、被承認國ノ正式ノ全權委任狀ヲ有スル全權委員ト談判ヲ開始スル際ヨリ、已ニ默示的承認ヲ存スルト爲スナリ（註一）。

（註一）例ヘバ「リヴィエ」ハ默示的承認ノ一事例トシテ、新國トノ談判ノ開始ヲ擧ゲタリ（「リヴィエ」國際法「プランシツ」第一冊、五八、五九頁參照）。

默示的承認ハ明示的承認ト同様ニ國際法上ノ正式ノ承認ニシテ、國際法上成立セル默示的承認ノ效果ハ、明示的承認ト異ナル所ナシトス。國際團體内ノ一國ガ新國ニ正式ノ信任狀ヲ有スル外交使節ヲ派遣シ、又ハ新國ノ正式ノ信任狀ヲ有スル外交使節ヲ接受シ、又ハ新國トノ條約ノ締結ノ爲メニ其代表者ヲシテ署名及批准ヲ行ハシメ、又ハ新國トノ條約締結ノ爲メニ正式ノ全權委任狀ヲ全權委員ニ與ヘ、又ハ新國ノ派遣スル正式ノ領事ニ認可ヲ與ヘ、又ハ新國ニ正式ノ委任狀ヲ有スル領事ヲ派遣シテ新國ノ元首又ハ其他ノ相當官僚ヨリ正式ノ認可ヲ受クル等ノ事ヲ行フトキハ、新國ヲ以テ國際法上ノ國家トシテ認メ、之ト正式ノ關係ヲ開始スルノ意思ヲ存スルコト明白ナルヲ以テ默示的方法ニ依ル國家承認ヲ存スルト認メ得ベキナリ。

新國へ領事ヲ派遣スルコト及新國ノ領事ヲ接受スルコトニ關シテ二種ノ場合ヲ區別セザルベカラズ。單ニ國內法上領事ノ官名ヲ有スル人ヲ新國ニ派遣シテ人民保護ノ任務ニ當ラシムルモ、正式ノ委任狀ノ附與及委任狀ノ新國政府へノ提出ノ事ノ行ハレザル場合（註二）、又ハ新國ノ國內法上領事ノ官名ヲ有スル官吏ノ自國領土ニ駐在シテ其所屬國人保護ノ任務ヲ行フコトヲ默視スルモ、之ニ正式ノ認可ヲ與ヘテ正式ノ領事トシテ認ムルコトナキ場合ハ、新國ヲ以テ國際法ノ主體トシテ之ト正式ノ關係ヲ開始スルノ意思ガ未ダ表示サレザルヲ以テ、未ダ國家ノ默示的承認ヲ存スルコト無キモノト認ムベキナリ。之レニ反シテ、正式ナル委任狀ヲ携フル領事ヲ新國ニ派遣シ又ハ新國ヨリ正式ニ派遣サレタル領事ニ對シテ正式ノ認可ヲ與フル場合ニ於テハ、新國家ト正式ノ關係ヲ開始シ、新國家ヲ國際法ノ主體トシテ取扱フノ意思ガ表示サレタト認ムベキヲ以テ、假令國際法上ノ國家トシテ新國ヲ承認スルノ意思ガ明示サレザルモ、默示的ノ方

法ニ依ル國家承認ヲ存スルト認メラルベキナリ（註三）。

（註二）十九世紀ノ初南亞米利加ノ諸共和國ノ西班牙ヨリ獨立セントスル際、英國ガ其國ノ國內法上領事ノ官名ヲ有スル官吏ヲ是等ノ國ニ派遣シ、人民保護ノ任務ニ當ラシメタルモ、是等ノ所謂領事ハ、正式ノ委任狀ヲ携ヘズ又駐在國ノ認可ヲ受クルコト無カリシヲ以テ、國際法上ノ正式ノ領事タル地位ヲ有セザルヲ以テ、是等ノ所謂領事ノ派遣ハ、默示的ナル國家承認ヲ含著スルトシテ認メラレザリシ所ナリ。

（註三）拙著平時國際法論四六八頁參照。

「オッペンハイム」ハ領事ノ任命カ國家ノ默示的承認ヲ成スコト無シトスルノ説ヲ爲ス者アルヲ駁シテ、斯ノ如キ説ガ國際生活ノ事實ニ合致セズト爲シ、領事ハ駐在國政府ニ其委任狀ヲ呈示シ、該政府ノ認可ヲ受ケテ始メテ其職務ヲ執行シ得ルモノナルノ故ヲ以テ、任命國ハ間接ニ國家承認ヲ含蓄スル所ノ正式の交通ヲ駐在國ト開始スルニ至ルコト明白ナリトセリ。但シ領事ガ正式ニ任命ヲ受ケ、正式ニ接受國ノ認可ヲ受クル場合ニ非レバ、間接的承認ガ含蓄サルコト無キモノト爲ス。若シ正式ノ任命ガ行ハレズ、正式ノ認可ガ要求サレズ又受ケラレザル場合ナルトキハ、外國人タル個人ガ、接受セル國家ノ承認ヲ受ケテ事實上領事ノ職務ヲ行フコトアリトスルモ、是ニ依リ國家ノ承認ガ行ハルルニ至ラズトス。此ノ如キ個人ハ、駐在國ガ政事的理由ニ依リ領事ノ職務ヲ行フコトヲ許ストスルモ、眞ノ領事トナルモノニ非ズト爲ス（「オッペンハイム」國際法第四版六六〇頁乃至六六一頁參照）。

默示的承認ノ事例ノ一トシテ新國家ノ領事ヘノ認可ノ授與ヲ舉クル學者少ナカラズ（註四）。一方ニ於テ新國家ノ領事ヘノ認可ノ授與ノ事實ヲ舉グル以上ハ、他方ニ於テ新國家ヘノ正式ノ委任狀ニ携フル領事ノ派遣及新國家ニ依ル正式ノ認可授與ノ要求ナル事實ヲモ默示的承認ノ事例トシテ舉ゲザルノ理ナシトス。共ニ新國家トノ正式ノ關係ノ開始ノ意思ヲ表示シ、新國家ヲ國際法ノ主體ヲ以テ遇スルノ意思ヲ表示スルモノナレバナリ。

（註四）「ジョージ・グラフトン・ウィルソン」國際法（「ホルンブック・シリリス」、三〇頁。「リヴィエ」國際法「ブランシッブ」第一冊、五八、五九頁。「ヒッギンス」、「ホール」國際法増補、第八版、一〇九頁參照。

國際法學者ハ默示的國家承認ノ事例トシテ正式ノ外交使節ノ派遣、接受ヲ舉グルコト普通ナルモ、正式ノ領事ノ派遣、認可ヲ舉グルコトニ躊躇スルモノ少ナカラズ。共ニ對手國家トノ正式ノ關係ノ開始

ノ意思ヲ表示シ、新國家ヲ國際法ノ主體ヲ以テ遇スルノ意思ヲ表示スルモノナルヲ以テ、此點ニ於テハ、彼是區別ナカルベキナリ。國際法學者ガ新國ヘノ正式ノ領事ノ派遣又ハ新國ノ領事ニ與フル正式ノ認可ヲ默示的國家承認ノ事例中ニ舉グルニ躊躇スルノ傾向アルハ、一ハ舊國滅ビテ新國起ル際、外交使節ニ關シテハ、舊國ニ派遣サレタル者ハ當然其職務ヲ終了シ、新國ニ對シテ新ナル信任狀ヲ携フル新使節ヲ派遣スルヲ要スルコトガ實際ニ於テモ認メラルルニ反シテ、領事ニ關シテハ其ノ政治ニ關係ナキノ故ヲ以テ、舊國ノ認可ニ依リ其職務ヲ執行者ガ新國ニ於テ過渡的ニ職務執行ヲ爲スヲ認メラルルノ慣行ヲ存スル事ニ關係アルガ如シ。然レドモ領事ニ關スル此ノ過渡的ノ職務執行ノ容認ハ、人民保護ノ必要ニ基ク所ノ眞ニ過渡的ナルモノト認ムベク、結局ニ於テ領事ハ新國家ニ宛テタル委任狀ヲ提出シ、新國家ノ認可ヲ受ケザルヲ得ザルモノニシテ、新國ノ認可無クシテ一時職務ヲ執ルコトノ認メララルルニ時ノ便宜ノ爲メノ便法

ニ外ナラザルナル。此點ハ何レナリトスルモ、新國家ニ正式ノ領事ヲ派遣シ又ハ新國家ノ領事ニ正式ノ認可ヲ與フルハ、新國家ヲ以テ國際法ノ主體トシテ遇スルノ意思ヲ表示スルモノニシテ、國家ノ默示的承認ヲ爲スモノト言フベキナリ。

外機密

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

M.15.0.1-17

昭和16 五八〇三九 (暗)

新京 十一月十二日午後發 歐、亞  
本省 十二日 後着

東郷外務大臣

梅津大使

第七二三號

貴電第六六六號ニ關シ(波蘭國否認ニ關スル件)

當國ハ約千二百人ノ波蘭人ヲ擁シ居ル處右ハ當國在留外國人間ニ於テ白系赤系ニ次キ第三位ヲ占メ而モ從來共滿洲國國法ヲ遵守シ來リタル事實ニ鑑ミ今遽ニ手荒ナル措置ニ出ツルニ於テハ却テ彼等ヲ驅ツテ反日滿的態度ヲ執ラシムルノ惧モアリ旁此ノ際ハ精々領事認可狀ノ取消ヲ通告スルニ止メ暫ク事態ヲ見送ル事適當ト存セラル右様取計ヒ差支無キヤ御向訓相成度シ(軍側ト協議済ミ)

(了)

外務省

外機密

極秘

往電寫

M.15.0.1-19

總番 西三四六 (符) 昭 十六年十一月十七日 後七時 分裝 主一

電言課作成

在滿 梅津大使

東郷外務大臣

在滿波蘭領事館ニ關スル件

第八二三號 極秘

貴電第七二三號ニ關シ

下村處長ト詰合済ミナルニ依リ同官ヨリ詳細御聞キ取リ相成度シ

記録件名 在滿支各領事館  
梅津大使  
波蘭國否認ニ關スル件